

ペルー独立確立 200 周年 2024

第 95 回企画展

器にみる  
アンデス世界

2024.4.17 WED - 6.3 MON



日本で「古代アンデス」といえば、インカ帝国を思い浮かべる方が多いでしょう。しかし、ペルーとボリビアの一部を含む中央アンデス地帯では、実に多様な古代文化が栄えました。古代アンデスでは紀元前 3000 年頃から神殿が建設され始めますが、土器が登場するのは紀元前 1800 年頃と、世界のほかの地域と比べて遅かったことに驚かされます。それにもかかわらず、各地で様々な土器がつくられました。

こうした古代アンデスの土器は、19 世紀後半に欧米諸国の博物館や美術館によって考古学的に高く評価されます。これがきっかけとなり贋作がつくられるようになりました。そして 1950 年代に古美術コレクター達によって造形美術としての価値まで付与されると、贋作づくりはさらに盛んになりました。

本展は、2021 年に開催した第 86 回企画展「器にみるアンデス世界—ペルー北部地域編—」の続編として開催します。そのため、ペルー南部地域とボリビアにまたがって栄えた古代文化を対象として、土器や木器の真作と贋作を同時に展示します。これにより、当時の世界観に触れていただき、それらが現代ペルー社会において古代とは異なる脈絡で再生産されている様子をご覧ください。また、山形大学ナスカ研究所および山形大学附属博物館の協力を得て、ナスカの地上絵に関する最新の研究成果と、同時進行で行われている保護活動の現状についてご紹介します。

本展を通じて、ペルー北部地域とは異なる土器や木器の造形をご堪能いただき、現代ペルー社会における文化財をめぐる実状を感じとっていただければ幸いです。

## ■ 展示構成

### I 部. 「器から読み解く古代アンデス世界」

日本で「古代アンデス」といえば、インカ帝国を思い浮かべる方が多いでしょう。しかし、インカ帝国以前には様々な古代文化が栄えていました。そのため I 部では、ペルー南部地域に栄えた古代文化の土器や木器を時代順に展示して、多様な文化が栄えていたことをご紹介します。そして、そこに表現された動植物や人物、あるいは神話的な世界を紹介することで、各文化がもつ独自の世界観や、共通する観念に触れていただきます。

### II 部. 「再生産、消費される古代文化」

ここでは、贋作を古美術マーケットでの販売を目的として補修・製作されたものと定義して展示します。ペルーにおける贋作づくりは、古代アンデスの土器が考古学的に評価された 19 世紀後半から始まりました。そして 1950 年代に造形美術としての価値が付与されると、さらに盛んになりました。とりわけナスカ文化の土器は、贋作づくりの初期からその対象となりました。一方でナスカでは文化庁から許可を受けてレプリカがつくられ、土産物として販売されている土器もあります。II 部では I 部で紹介した古代文化ごとに贋作を展示しますが、ナスカ文化に関しては、贋作とレプリカおよび土産物の土器を対比させることで、現代ペルー社会に生きる人々の古代文化に対する対照的な向き合い方をご覧ください。

### III 部. ナスカ研究の最前線

最後に、2023 年 3 月 15 日～5 月 12 日に山形大学附属博物館で開催された「地上絵の謎と保護」展のパネルを借用して展示します。山形大学ナスカ研究所による、航空写真、ドローン撮影画像、そして AI を活用したナスカの地上絵に関する最新の研究成果に加えて、同時進行で行われている保護活動についてもご紹介します。国際的な学術研究の発展に寄与し、現地の文化保護に貢献している日本人研究者の存在を、多くの方に周知していただければ幸いです。

## ■出品数 約 80 点

主な展示品(以下に記載はすべて天理大学附属天理参考館所蔵)

- ・パラカス文化(紀元前 800 年頃～紀元後 100 年頃)の土器
- ・ナスカ文化(紀元前 100 年～650 年頃)の土器
- ・ティワナク文化(紀元後 500 年頃～1150 年頃)の土器
- ・チャンカイ文化(紀元後 1000 年頃～1470 年頃)の土器
- ・イカ・チンチャ文化(紀元後 1200 年頃～1450 年頃)の土器
- ・インカ帝国期(紀元後 1450 年頃～1532 年)の土器とケロ(陶製・木製)
- ・植民地時代(紀元後 1532 年～1821 年)の木製ケロ

## ■関連イベント ※要入館券

### ・記念講演会

「ナスカの地上絵と人工知能:新展開の現地調査をめぐって」

講師:坂井 正人氏(山形大学教授)

日時:5月4日(土・祝) 午後1時30分～3時 / 会場:地下1階研修室 / 定員:100名 [当日先着順]  
受講料:700円(入館料含む)

### ・トーク・サンコーカン(学芸員による講演会)

「インカってなに?」

講師:荒田 恵(天理参考館学芸員)

日時:4月24日(水) 午後1時30分～3時 / 会場:地下1階研修室 / 定員:100名 [当日先着順]

### ・ペルー産コーヒー特設カフェ

日時:4月24日(水) 午後1時～3時30分 / 会場:2階ホール / 1cup:220円

### ・ギャラリートーク(マンドートーク) 全3回(各回別内容)

開催日:4月22日(月)、5月20日(月)、6月3日(月)

時間:午後0時30分～1時20分 / 会場:3階企画展示室

### ・その他

体験コーナー「地上絵を探せ!」ナスカ台地の衛星写真を印刷したマットの上に乗って地上絵を探してみよう

映像コーナー「ナスカの地上絵と神殿をめぐる巡礼 巨大な地上絵の分布規則」

映像コーナー「ペルー独立確立 200 周年 2024」関連

会期中常時開催 / 会場:3階ロビー

## ■開催概要

展覧会名 ペルー独立確立 200 周年 2024 第 95 回企画展「器にみるアンデス世界—ペルー南部地域編—」

会場 天理大学附属天理参考館 3階企画展示室

会期 2024年4月17日(水)～6月3日(月)

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日 火曜日、4月28日(創立記念日)

入館料 大人500円、団体(20名以上)400円、小中高生300円(学校団体の見学は無料、要事前申込)

※障がい者およびその介護者1名は無料。受付カウンターに障がい者手帳等またはミライロIDをご提示下さい。

主催 天理大学附属天理参考館

後援 ペルー大使館、古代アメリカ学会、天理市、天理市教育委員会、歴史街道推進協議会

協力 山形大学ナスカ研究所、山形大学附属博物館



第95回  
企画展サイト

■お問い合わせ 天理大学附属天理参考館 〒632-8540 奈良県天理市守目堂町 250 番地

TEL.0743-63-8414 FAX.0743-63-7721 E-mail:san-info@sta.tenri-u.ac.jp

展示担当:荒田 恵(海外民族室学芸員) / 広報担当:山口・渡辺

■ペルー独立確立 200 周年 2024 第 95 回企画展「器にみるアンデス世界—ペルー南部地域編—」  
 広報用画像リスト

これらの広報画像は当館ウェブサイトのプレスリリース内(ペルー独立確立 200 周年 2024 第 95 回企画展「器にみるアンデス世界—ペルー南部地域編—」)よりダウンロード可能です。使用に関しては以下の注意事項を遵守してください。

・キャプションには以下の通り記載してください。

- 【1】鉢(幾何学文) パラカス文化 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【2】深鉢(シャチの神と女性) 推定/ナスカ文化 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【3】陶製ケロ ティワナク文化 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【4】壺(棍棒を持つ擬人化された神) ※部分的贋作 ナスカ文化、現代 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【5】深鉢(農夫) ※部分的贋作 ナスカ文化、現代 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【6】木製ケロ(刻文) インカ帝国 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【7】人面付き双耳壺 ※部分的贋作 インカ帝国、現代 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【8】人物象形壺 ※推定/贋作 推定/現代 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【9】ポスター

・写真(画像)のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・写真(画像)の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

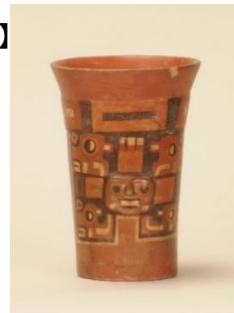
【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】

